

## 若手研究者コラムリレー

### 朴 周鳳 (パク ジュボン)

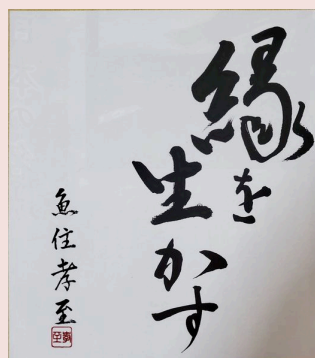


#### プロフィール

駿河台大学スポーツ科学・現代文化学部准教授  
日本体育学会の専門領域: スポーツ人類学  
韓国出身

2001年、龍仁大学校卒業(柔道および体育を学ぶ)  
2004年、国際武道大学大学院 武道・スポーツ研究科修了  
2011年、早稲田大学大学院 人間科学研究科修了(「人間科学」博士取得)  
早稲田大学スポーツ科学研究センター招聘研究員、明治大学商学部兼任講師、国際武道大学体育学部准教授を経て、2019年より駿河台大学スポーツ科学・現代文化学部の准教授。スポーツ人類学、スポーツ文化論担当

E-mail: t11topjp@hotmail.com



『月刊武道』  
8月号より

#### わたしの研究

##### 東アジアの共通文化としての 武道を知る！

##### ①植民地期における日本武道の伝播過程

日本の近代的国家経営の中で植民地となった朝鮮と台湾に日本武道(柔道・剣道・空手道)が如何に伝播され、如何に変容して現地化したのか。植民地という不均衡な力関係の中で生じた文化変容の側面から日本武道の近代化を検証する。

##### ②身体文化としての日本剣術「わざ」

武道は精神的要素と身体的要素に区別され、身体的要素に重要なものはその所作である。所作は「わざ」とも言われ流儀を実存させる根本的要素となる。こうしたわざが如何なる機能を持っているか、殺し合いの「術」から人間の「道」を求めた武道の教えはそのわざにあるはずだ。「新陰流」と「一刀流」とする日本の主な流儀を通じて(文献解釈と技の復元)、日本武道が求めた本来の教えを把握する。

##### ③韓国武芸の新しい振興戦略

社会的マイナーの存在である韓国武芸が、新しい文化キーワードとして振興させるための戦略を分析し、今日において韓国武芸が社会に対して如何に適応化していくかを検証する。



袋竹刀と木刀

わたしの渾身の論文・書籍・記事

必読

志々田文明・大保木輝雄編著、『日本武道の武術生とは何かーサピエンスと生き抜く力』。青弓社、2020。

#### (なんでも帳)

武道は不思議な生きものである。

柔道から始まった武道との縁は「新陰流」と出会うことで、大きな転機を迎えるようになった。この時点で改めて、私にとって武道は如何なるものかを考えてみる。と師匠が記した「縁を生かす」という言葉が浮かび上がる。そうだ、武道は私に様々な縁を結んでくれたのだ。そのおかげで他国での難しい勉強や厳しい生活を乗り越えたのだ。何よりその恩に感謝する。

さて、今の武道の立場はどうだ。スポーツでもなくスポーツの範疇に入っている。矛盾そのもの。何か問題だろう。社会的ニーズの変化、時代遅れもの？ 武道は何だ？その発想は、その心は、その身体は。。。これからの武道の行方は、さらに混乱するばかりである。

しかし、武道研究は楽しい。一つ一つ知っていくことが、一つ一つ縁をつなぐことが、先人の知恵を学ぶことが、いずれか武道って何だと自分の中で定義をつけたい。そして武道の教えをよりわかりやすく説明したい。さらに東アジアの共有文化としてのその存在価値について論じたい。

これからまた、遠い夢をみることになるだろう。

○次回のコラムリレーは信州大学の「加藤彩乃」さんを予定しています。

#### 日本体育学会若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育学会若手の会が発足しました！

→メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPa5fY3kcB5a2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

[taiikugakkaiwakate@gmail.com](mailto:taiikugakkaiwakate@gmail.com) (担当: 木村)

